

公 示

学長候補者の決定について

国立大学法人富山大学学長選考規則第9条の規定に基づき、平成30年11月5日開催の国立大学法人富山大学学長選考においては、下記のとおり学長候補者を決定したので公示する。

記

国立大学法人富山大学学長候補者

(氏名) (所属機関・職名等)

齋藤 滋 富山大学大学院医学薬学研究部（医学）教授
富山大学附属病院長
富山大学副学長

平成30年11月5日

国立大学法人富山大学学長選考会議

国立大学法人富山大学学長候補者履歴

- 氏名 齋藤 滋(さいとう しげる)(昭30年7月17日生 63歳) 大阪府出身
- 学歴 昭和55年3月 奈良県立医科大学 卒業
昭和59年3月 奈良県立医科大学大学院医学研究科 修了
- 学位 昭和60年3月 医学博士(奈良県立医科大学)
- 職歴 昭和55年4月 奈良県立医科大学産婦人科学教室 入局
昭和59年4月 奈良県立医科大学産婦人科学 助手
平成2年10月 奈良県立医科大学産婦人科学 講師
平成9年1月 奈良県立医科大学産婦人科学 助教授
平成10年4月 富山医科大学医学部産科婦人科学 教授
平成13年4月 富山医科大学附属病院 周産母子センター長(～平成15年3月)
平成16年4月 国立大学法人富山医科大学附属病院 副病院長(～平成21年3月)
平成17年4月 国立大学法人富山医科大学附属病院 周産母子センター長(～平成19年3月)
平成17年10月 国立大学法人富山大学医学部産科婦人科学 教授
平成18年4月 国立大学法人富山大学大学院医学薬学研究部(医学) 教授
平成21年4月 国立大学法人富山大学附属病院 周産母子センター長(～平成22年11月)
平成23年4月 国立大学法人富山大学附属病院 副病院長(～平成25年3月)
平成25年4月 国立大学法人富山大学教育研究評議会 評議員(～平成28年3月)
平成28年4月 国立大学法人富山大学附属病院 病院長
　　国立大学法人富山大学 副学長
　　現在に至る
- 専門分野 産科婦人科学

国立大学法人富山大学

次期学長候補者選考の経緯と理由

国立大学法人富山大学学長選考会議は、平成30年6月27日「富山大学学長候補者選考の基準」及び「富山大学にふさわしい学長像」の提示のもとで、学長候補適任者の推薦を求め、9月10日（月）に推薦のあった石原外美氏、齋藤滋氏、鈴木基史氏、二階堂敏雄氏、村口篤氏の5氏を学長候補適任者に決定した。続いて、10月15、17、19日に杉谷・高岡・五福の3キャンパスにおいて5氏による公開討論会を実施し、10月22日から26日にかけて学内意向調査を実施した。

本日（11月5日（月））学長選考会議を開催し、学長候補適任者に対する面接を実施したうえで、富山大学にふさわしい次期学長候補について審議を行った。審議は、推薦時に提出された書類（履歴、所信等）、公開討論会、面接の結果等を、富山大学学長選考規則第4条に基づき「学長候補者選考の基準」並びに「富山大学にふさわしい学長像」に照らして行ったものであり、意向調査の結果を参考とした。次期学長候補者選考の理由は以下の通りである。

自然及び社会環境における人類の持続的な発展が問われ、その一方で、グローバル市場の競争が熾烈さを増し、少子高齢化など地域社会が深刻な問題を抱える中で、今日我が国は大きな転換期を迎えている。このような時期にあって、人材の育成と知の創造を預かる高等教育の役割はいよいよ大きいが、国立大学は18歳人口の減少や運営費交付金の削減等、極めて厳しい状況にある。富山大学は、逆境の中で教養教育の一元化と都市デザイン学部を創設し、統合後の大学として新たなスタートラインに立ったが、“社会のための大学”として改革は継続的に進めねばならない。

次期学長の役割は、富山大学が全国的な教育研究拠点および地方創生の中核拠点になるべく、強みのある総合大学への道筋をつけ発展させることにある。そのためには大学運営と法人経営の責任者として、多様な専門分野や組織を統治するガバナンスと改革に対する強いリーダーシップが求められる。学長候補者の選考にあたっては、人格・識見・責任感や教育・研究・社会貢献に対する信念と情熱に加え、高邁なビジョン、現状の分析と課題の把握、改革に向けた決意と行動力を問うたところである。

学長選考会議は、以上のようなプロセスと考え方で選考を進め、次期学長候補者として、齋藤 滋氏が適任であると判断した。

先行きが不透明で混沌とした国際社会にあって、国立大学法人富山大学が我が国そして地域の学府として、新学長のもとで健全な情報を発信し発展することを祈念する。学長選考会議は、このことを確信し、次期学長候補者の決定をここに報告する。

平成30年11月5日

国立大学法人富山大学学長選考会議